

令和 7 年度
第 3 回人吉市まちづくり推進会議
会議録

日 時：令和 8 年 3 月 17 日(火) 10:00-12:00

場 所：市庁舎 3 階庁議室

出席者：[委員]

人吉市長

人吉市社会福祉協議会 会長

熊本県立大学 教授

東校区支部 支部長

西校区支部 支部長

人吉市消防団 副団長

人吉商工会議所 会頭

人吉温泉観光協会 会長

人吉市文化財保護委員会 委員長

青井阿蘇神社 宮司

人吉市 PTA 連絡協議会 会長

(一社)ひとよし球磨青年会議所

直前理事長

国土交通省 八代河川国道事務所 所長

熊本県 球磨地域振興局 局長

熊本県 球磨川流域復興局 政策監

松岡 隼人

柴田 祐

吉田 力(欠席)

中村 良郎

竹地 史運

岩下 博明

鳥越 英夫

井上 道代

福川 義文(欠席)

永田 政司(欠席)

真木 英男

飯島 直己(代理出席)

田口 雄一(代理出席)

甲斐 奈美恵

[事務局]

人吉市 復興支援課

井上 敬明 次長、尾方 政康 係長、山田 千夏 主任

[デザイン会議 座長]

熊本大学 教授

星野 裕司

[デザイン会議 プロジェクトマネージャー (PM)]

人吉市 副市長

溝口 尚也

ハートビートプラン

泉 英明

[デザイン会議 随行]

国土交通省 九州地方整備局

松本 敏幸 建設専門官、田中 啓 氏

熊本県

球磨川流域復興局

平木 佑弥 参事

球磨地域振興局

津山 紗弓 主任

人吉市

復興政策部

田副 勝裕 部長

復興建設部

立場 康宏 部長

市街地復興課

日下部 伸樹 次長、山尾 高史 係長、出口 由也 技師

風景工房

増山 晃太 氏

tarakusa

柿原 優紀 氏(オンライン)

ハートビートプラン

新津 瞬、田中 颯太

- 資 料：【資料 1 今年度の会議・全体スケジュール】
【資料 2 デザイン監修まとめ】
【資料 3 中川原公園護岸工事について】
【資料 4 公民連携基本計画】
【資料 5 情報発信について】
【資料 6 人吉まちづくりフロー】
【資料 7 今年度のデザイン監修・社会実験一覧】
【資料 8 デザイン監修まとめ】
【資料 9 社会実験の検証結果・方向性まとめ】
【資料 10 社会実験を経て常設化を目指す取組】
【資料 11 来年度スケジュール案】

記録：田中

【決定・承認事項】

1. 今年度の会議・全体スケジュールについて報告
 2. 今年度のデザイン監修の内容について報告
 3. 中川原公園護岸工事について報告
 4. 公民連携基本計画(たたき台)について報告
 5. 今年度の情報発信の内容について報告
 6. 今年度の取組(デザイン監修・社会実験)について承認
 7. 来年度のスケジュールについて報告
-

【会議録】

(1) 開会・市長挨拶

(松岡市長)

- ・本日は参加いただき感謝申し上げます。また、日ごろより本市が取り組むまちづくりにご理解・ご協力いただき感謝を申し上げます。
- ・3月15日のまちなかフォーラムでは140名程度の方に参加いただいた。参加いただいた委員の方にも感謝を申し上げます。
- ・今年度は59の社会実験を実施した。本日はそれらの結果や来年度に向けた方針について報告するとともに、各エリアのデザイン監修についても審議いただきたい。
- ・来年度に向けて作成している公民連携基本計画や中川原公園の護岸工事、これまでの情報発信の方法についても報告する。

【報告事項】

(1) 今年度の会議・全体スケジュールについて

【資料 1 今年度の会議・全体スケジュール】

(溝口 PM)

- ・今年度は推進会議を3回、デザイン会議は毎月1回、計11回開催した。
- ・各TFは月に1、2回程度実施した。TFには行政・専門家が参加し、各エリア・テーマの社会実験・デザイン監修等について議論を行った。
- ・今年度は青井阿蘇神社周辺、中心市街地、鍛冶屋町通り、中川原公園、駅前のデザイン監修を実施した。
- ・情報発信では、各種メディアにてまちづくりに関する情報を発信した。また、まちの編集室を開催し、民間のマイメディアを持つ方と情報発信の方法等について議論した。
- ・住民の方との意見交換の場として、野点会、ヒトヨシクマラボを実施した。また、地域内外の方へ今年度のまちづくりの取組と来年度の方針について報告するまちなかフォーラムを実施した。
- ・今年度は多くの社会実験を実施した。特に10月1日から11月9日をコアアクション MONTH として

集中的に社会実験を実施した。

- ・行政運営事業としては、下記のような取組を実施した。
 - ・中川原公園を開放し、管理運営の方法を検証。公園のライトアップの実施。
 - ・球磨川の右岸・左岸の河川管理用通路を活用し、川を眺めることのできる滞留空間を創出。
 - ・大橋の歩行者天国化、日常使いの方法を試行する社会実験の実施。
 - ・青井阿蘇神社の参道の演出、参道から川に降りることができる階段、船着場の設置。ライトアップの実施。
 - ・人吉城跡から川へ向かう階段と胸川沿いの散策路設置。石垣・樹木のライトアップ。
 - ・城見庭園から対岸を眺めるデッキ・櫓の設置とライトアップ。
 - ・肥後銀行1階を活用したサードプレイスの運営。
 - ・シェアサイクルのポート増設や交通量・駐車場調査、じゅぐりっと号のダウンサイジング等の社会実験実施。
- ・社会実験を実施するにあたり、5回の社会実験実行委員会を実施し、民間の担い手とコミュニケーションを取りながら企画検討を進めた。
- ・まちなかフォーラムには、140名程度が参加した。今年度の社会実験やデザイン監修の結果と来年度の方針案について説明を行った。また、担い手とのトークセッションを通じて、各立場から今年度の振り返りや次年度の進め方について議論を行い、来年度に向けた機運醸成を図った。

(2) デザイン監修について

【資料2 デザイン監修まとめ】

(日下部次長)

- ・下記3点についてデザイン監修・設計を進めている。
 - ・青井の土地区画整理地内における仮称西部公園の整備に向けた基本設計。
 - ・河川階段や参道周辺の整備計画に合わせた球磨川河川敷沿いの階段護岸の基本設計。
 - ・紺屋町の土地区画整理地内における仮称紺屋町公園整備に向けた基本設計。

(増山氏)

- ・西部公園下青井地区の方から理想の公園の使い方や機能を伺い、設計に反映している。
- ・基本的な設計の考え方としては、緑地の周りに遊具を配置する構成とし、地域の方が集まる地域の拠点となる広場を目指している。
- ・①照明灯、②耐震性貯水槽、③境界フェンス、④手洗い場、⑤ソーラー照明、⑥防犯カメラ、⑦東屋、⑧テーブルセット、⑨かまどスツール、⑩目隠しフェンス、⑪車止め、⑫横断防止柵、⑬アスレチック遊具、⑭芝、⑮インターロッキング舗装、⑯健康遊具、⑰植栽、⑱サークルベンチ、⑲プランターを設置する。
- ・木は常緑で葉が落ちないものを採用し、樹木の周りにも座れるようにする。
- ・隣接する下青井会館と公園が一体的に使えるようになると良いと考えている。

(松本専門官)

- ・青井阿蘇神社から球磨川をつなぐ階段護岸の整備を計画している。
- ・今年度は制約条件を踏まえ、基本的な配置計画を検討した。
- ・今後は設計・維持管理に関して国・県・市の役割分担を行い、階段護岸の詳細設計を進めていきたいと考えている。

(増山氏)

- ・紺屋町公園では今年度基本設計を実施した。次年度以降に詳細設計を行う。
- ・公園の考え方としては下記の通りである。
 - ・雨水浸透を促し流出を抑制する流域治水の一環としての公園

- ・市街地から山田川までつながるグリーンモールとしての公園
- ・公民連携で公園周辺や区画整理全体の価値を高める公園
→周辺の事業者とも連携し、公園にお店の機能を展開できないかと考えている。
- ・大雨の際に流れる水や、エリア一帯の水を集めて浸透させ、山田川に流れ込む流量を抑制したいと考えている。その際に安全対策として公園にはサインを設置する。
- ・大雨以外の日常時には水は流れないが、窪地も含めて公園全体を使っていただくことを想定している。また、多くの樹木も配置し、木陰をつくることで憩える空間となるとよいと考えている。

（３）中川原公園護岸工事について

【資料３ 中川原公園護岸工事について】

（松本専門官）

- ・令和４年度に中川原公園の盤下げ工事を行った。その後に人吉市が災害復旧工事を実施している。令和７年度から国の護岸工事が進行している。
- ・護岸の整備を行うにあたっては、自然石を使用した護岸とし一部階段やスロープも配置する。
- ・現在上流部から工事を着手しており、２年かけて整備を行う。令和９年度以降に下流の護岸工事を実施する。

（４）公民連携基本計画について

【資料４ 公民連携基本計画】

（溝口 PM）

- ・公民連携基本計画のたたき台を作成している。公民連携基本計画は、民間の投資を呼び込みたい事業について、市としての方向性を打ち出したものである。
- ・次年度以降は公民連携基本計画を基に、民間事業者に対するサウンディングを実施したいと思っている。
- ・公民連携基本計画を策定した後に改めてその内容について推進会議で報告する。

（５）情報発信について

【資料５ 情報発信について】

（柿原氏）

- ・今年度はまちづくりの情報を地域内外の方に広く分かりやすく伝えることを目的として情報発信を行った。
- ・大きく分けて下記４つの取組を実施した。
 - ・①復興まちづくり情報のやさしい記事発信
 - ・広報人吉での紙面掲載、紙のパンフレットの配布、スマホから閲覧できるオンライン周知、市の情報をスマホや PC から閲覧できるデジタル閲覧機能の活用、公式 ４ 種類の SNS を運用、YouTube での動画インタビュー配信を行った。
 - ・YouTube では、社会実験を実施する行政・担い手にインタビューを行い、社会実験の目的や趣旨、現場の取組の様子についてお話いただいている。１年間で 18 本の動画を配信した。
 - ・②プレスネットワークの構築
 - ・プレスリリース配信による記者クラブ 12 社との連携を行った。
 - ・各社会実験企画について取材に来てもらえるように働きかけた。市内で連携している記者クラブ以外にも Rural Act 等では全国のメディアに掲載されるようにプレスリリースの配信を行った。20 媒体以上、50 件以上の掲載が確認できている。
 - ・③市民参加型の連携発信
 - ・各担い手がチラシを製作し、SNS で発信連携を行った。市民がその投稿を見て、発信の輪が広がった。

・④まちの編集室の開催

- ・市民型メディア 3 媒体を持つ方々を市から編集員に任命した。個人でメディアを運営されている方に社会実験等の取組について発信してもらった。委嘱期間は 1 年だが、来年度も継続したいとの意向を確認できている。まちの編集室のメンバーにはピンク色の腕章とネームタグを配布している。
- ・まちの編集室は決まった拠点を持たず、社会実験の場を訪ねて回るようにしている。社会実験の場所を訪ねることで、より社会実験に対する理解が深まったと考えている。
- ・まちの編集室の取組の 1 つとして、まちなかシェアサイクルについて、各メディアの方からおすすめルートを聞いた。各おすすめルートについては QR コードを読み取ることでルートが表示されるようになっている。

■質疑応答

(鳥越委員)

- ・紺屋町公園のデザイン監修について、整備予定地の場所を教えてください。

(星野氏)

- ・Ao Hostel の西側、南日本銀行の北側である。

(鳥越委員)

- ・大雨時の最大水深を教えてください。

(増山氏)

- ・水深は最大 70cm になる想定である。

(鳥越委員)

- ・観光の観点から、普段公園を見慣れていない人に対する安全確保の方法を検討してほしい。

(鳥越委員)

- ・公民連携事業について、次年度からサウンディングを実施するとのことであったが、地域のプレイヤー不足しているのが地域としての課題かと思う。その対応策について何か考えていることはあるか。

(溝口 PM)

- ・水害の後で民間投資が起きにくい状況かと思う。まずはまちの将来像や描いている理想の未来を行政が示すところから始めるしかない。その上で、そのような取組みを持続可能にするための方法を検討し、使う目線から検証して、ハードに反映するという手法を取りたいと考えている。

(泉 PM)

- ・まちの将来像が見えないと民間事業者も動きだせない。公民連携で取り組む具体的なエリアを定めて、コンセプトや事業イメージを明示した上で、地域事業者に話をしに行く必要がある。
- ・また、行政側としては、提案を受け入れる体制をつくる必要があると考えている。地域の銀行のファイナンス参画等も含め、民間事業者の投資しやすくなる環境づくりを様々な角度から総合的に整えていく必要があると考えている。

(鳥越委員)

- ・経営側としては厳しい状況が進んでいる。後継者不足も深刻である。その中で新規で投資をすることは考えにくい。まずは、地元からプレイヤーを見つけることから始め、少しずつ地域外に広げていくと良いかと思う。また、例えば建設など一部を地元が担うといったようなことも考えられるだろう。

民間の投資が可能な公民連携の手法を丁寧に検討いただきたい。

【審議事項】

（１）今年度の取組について

【資料 6 人吉まちづくりフロー】

【資料 7 今年度のデザイン監修・社会実験一覧】

【資料 8 デザイン監修まとめ】

【資料 9 社会実験の検証結果・方向性まとめ】

【資料 10 社会実験を経て常設化を目指す取組】

(泉 PM)

○今年度の取組の全体像

- ・今年度の推進体制は昨年度から継続しており、「推進会議（意思決定機関）」と「デザイン会議（行政・専門家で構成された、推進会議に対する提案を行う機関）」で構成されている。デザイン会議の下には、エリアやテーマに沿った 15 の TF を設け、個別に議論を行っている。
- ・昨年度はアクションプランを策定し、10 のエリアの将来イメージの作成や、暮らしの満足度と観光の魅力向上の両方を目指すというまちづくりの目標を定めた。
- ・そして今年度はアクションプランに基づき、各エリアのデザイン監修と行政側として検証したいハードや運営手法、民間の担い手が実施したい企画を組み合わせ、合計 59 の社会実験を実施した。
- ・来場者や地域の方々に対してアンケート調査・ヒアリング調査を行い、交通量調査・プレイス調査も実施するなど、社会実験の効果検証も合わせて行った。
- ・また、野点会やヒトヨシクマラボを実施した。野点会は各エリアの地域住民や事業者の方がそれぞれ 5 名程度集まり、社会実験やまちづくりの感想や今後の方向性について意見を聞いた。ヒトヨシクマラボでは、各分野(体験・芸術、子育て、マルシェ・イベント、観光系)で人吉球磨地域にて活動する女性に対して話を聞いて議論した。
- ・それらの結果を踏まえ、「常設化やハード設計への反映が見えてきたもの」と「追加の課題検討が必要なもの」の 2 つに整理し、それぞれ次年度の方針について明確化した。
- ・デザイン監修については、道路、河川、施設、公園など多くのハード事業が進んでいる。通常はそれぞれバラバラに設計・工事が発注されるが、それでは全体として文脈に沿った統一感のあるデザインにすることが難しい。そのため、すべての事業やデザインを「デザイン会議」の専門家が監修する仕組みをとっている。ランドスケープ、夜間照明、交通など、それぞれの専門家がエリアを跨いで全体を監修している。

○今年度の取組内容

■中川原公園

- ・中川原公園では、5 月 12 日から公園開放を開始し、8 月 1 日からは車両の乗り入れも含めた 24 時間の公園開放を行った。①駐車場利用、②増水時対応・タイムライン、③滞留空間設置、④定点カメラ、⑤活用プログラム、⑥あかりの 6 項目について、その方法や効果を検証した。
- ・①について、駐車場の運用については、設定していた 15 台の駐車台数が適切であるということが分かった。夜間の無断駐車などがないかも確認をしたが、それほど件数は多くなかった。
- ・②について、増水時対応では、水位が 1～2 メートル上がって浸水する前に、事前察知をしてベンチやパラソルなどの滞留空間の設備を撤去し、別の場所に運ぶ作業の工程や負荷を検証した。水位が 1.0m になったら重量可搬物を撤去する運用としていたが、過去 6 年間の中で今年が最も水位が上がる回数が少なかった。それでも撤去作業はかなりの人工がかかることが分かったため、今後は運用方法を変更する必要があることが分かった。
- ・③について、中川原公園の利用ニーズが高いことは分かったが、現在は樹木がなく、日陰が少ないことなどから、今後の中川原公園の設えについては継続的に検証する必要がある。次年度以降はより簡

易なものを設置することや、公園に固定できる什器を設置できないかということを検討する。

- ・④について、定点カメラを設置し、公園の利用方法や駐車状況の確認を行った。不具合が多かったため、今後は機材を検討した上で、引き続き動画が撮影できるカメラを設置するようにしたい。
- ・⑤について、電気や日陰は必須であること、トイレは現状のトイレトレーラーで問題ないこと、給水は現状維持、排水は不要等、どのような公園設備が必要なのかということが明らかとなった。また、許認可等、公園の活用に必要な手続きをしやすい体制も今後検討したい。
- ・⑥について、大橋や公園内の夜間景観の検証も行い、夜間の安全性や景観的な価値を確認した。
- ・「球磨川マルシェ」：人吉球磨めしの鳥飼夫婦が主催した。水害後初めて、中川原公園全面を使用した。九州中から飲食店を集めて、約 1,300 人の来場があった。
- ・「球磨焼酎オクトーバーフェスト」：さるかんね人吉球磨の舟戸氏と熊本大学の学生、焼酎組合等による実行委員会が実施。長時間滞留時間される方が多く、非常に好評だった。今後事業性の改善を含め継続を検討している。
- ・「夜のピクニック」：グリーンコープ生協くまもとの御園氏、松田氏が実施した。夕方から実施し多くの人が集まった。次年度以降の継続実施も希望されている。
- ・「おくんち祭り御旅所設置」：青井神社奉賛会により数十年ぶりに中川原公園に御旅所が設置された。シンボリックな風景が生まれたが、増水時のリスク管理等は課題であるため、今後も継続的に検討となっている。
- ・「中川公園に泊まろう！」：ドットリバーが運営した。Rural Act'25 の参加者限定で宿泊できる運用とした。雰囲気は良かったが、一般利用者との共存やトイレの電気がつかないといった課題が残った。キャンプをしたいという市民からの要望もあるが、次年度以降は中川原公園の工事との調整が必要である。
- ・「小さな森づくりワークショップ」：椎葉氏が実施した。どんぐりを育て山に返す循環を学ぶ企画である。好評につき、今後は学校教育プログラムとの連動も検討されている。
- ・「よさこい祭り」：人吉よさこい銀翔会と熊本県立大学未来創士が主催した。雨天だったが参加者の満足度は高かった。会場が広いことによる音響コストや大橋の緊急車両の迂回対応については今後検討と聞いている。

■大橋

- ・「おおはしひろば」：10 月 25、26 日に実施した。大橋を車両通行止めにして「人の居場所にする」社会実験である。20 の企画が開催され、日常的な過ごし方を検証する社会実験として実施した。風景がとてもよく、参加者の満足度も高かったが、準備に大きな労力がかかるため、次年度以降は実施頻度や簡易な方法を検討したいと考えている。
- ・また、社会実験に合わせて、周辺の橋の自動車交通量調査を行った。大橋を通行する車の多くは水の手橋に流れたが、その交通量は平日の水の手橋の交通量よりも少なく、大きな影響はないことが判明した。

■球磨川テラス

- ・「球磨川テラス(りんどう前)」：行政として川沿いの道路を歩行者専用化し、りんどうの嶽本氏によりテラス席を設置した。来場者に非常に好評であり、嶽本氏の継続意向もあることから、社会実験期間を延長することとなった。現在は常設化に向けた制度設計を検討中である。
- ・「右岸(あゆの里・鍋屋前)」：あゆの里の有村氏、鍋屋旅館の富田氏によって川沿い道路をテラス席化した。当初予定していたプログラムが十分にできなかったため、次年度も実施することを検討されている。また、自転車通学路であるため、通学する学生との交錯の問題等を警察と調整したい。

■球磨川アクティビティ

- ・「球磨川アクティビティ」：迫田氏協力のもと、川遊びやレスキュー体験を行った。今後も継続的に実施したい。
- ・「Let's くまがわアクティビティ」：人吉ラフティング協会が、ゾーブやサップ、テントサウナを実施した。利用者の満足度は高かったものの、事業としての継続性が課題である。

■球磨川流域地域循環

- ・「MIZBERING 人吉会議」：MIZBERING は国交省と連携した「新たな川の活用方法を考える」ネットワークである。人吉の流域治水に関する動きとまちづくりの小さな取り組みを両輪で実施している例は全

国でも評価されている。

■城跡周辺

- ・「城跡周辺」：城跡周辺の川沿いに降りられる階段と人が通れる散策路を整備した。下から石垣を見上げる風景が好評だった。今後石垣・樹木のライトアップを含めて常設化に向けて検討を進める。
- ・「Rural Act'25」：らぞ LABO の皆さんが人吉球磨初の大規模な音楽フェスを実施した。1,200 枚超のチケットを販売した。全国から来場があり、約 3 割が宿泊された。来年度も実施を予定しているが、事業収支や駐車場の案内方法の改善が必要と聞いている。

■城見庭園

「城見デッキ」：球磨川の管理用通路の上に、川や対岸の城跡を眺めることができるデッキを設置した。来年度に社会実験の検証結果を地域住民に共有し同意を得た後に、常設に向けた実施設計を地域住民等と対話をしながら進める。カヌー部生徒・保護者・周辺住民の方々との清掃活動は継続的に実施する。

■青井阿蘇神社周辺

- ・「青井神社周辺の空間再編に向けた社会実験」：神社周辺を歩行者専用化し、新しい参道の軸線や照明演出、球磨川下りとの連動を計画した。地域住民からも概ね好評で、常設化に向けた検討を進める。

■まちなかサードプレイス

- ・「まちなかサードプレイス」：肥後銀行1階で3ヶ月間運営した。「人吉に新図書館をつくる会」の方々が中心となって運営し、一箱本棚オーナー制度を活用した図書館や自習スペースの設置、イベント実施を行ったが、顔の見える運営で寛容な雰囲気が多世代から支持され、次年度の常設化を目指すこととなった。今後運営にあたっては、民間の事業者や市だけでなく、熊本県立大学や八代河川国道事務所等、様々な主体が連携しながら運営することを検討している。

■鍛冶屋町通り

- ・「鍛冶屋町通り」：鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会の立山氏らを中心として、妖漫画館の運営が始まった。地域が主体となって年中無休で継続的に運営を行う。
- ・「人吉球磨の風景・中村紫苑写真展」：石垣氏・緒方氏を中心となって、花火大会のクラウドファンディングと連動して、人吉球磨地域で多く撮影を行う写真家中村紫苑さんの写真展を人吉駅待合室で実施した。

■エリア共通

- ・「まちなかフットパス」：フットパス相良路が主催で、今年度の社会実験によって整備された胸川沿いの散策路や城見デッキ等も含め、まちなかを巡るフットパスを実施した。

■交通・モビリティ・駐車場

- ・人吉 IC、人吉城跡、人吉市役所、くまりばにシェアサイクルのポートを増設した。アニメファンの利用も多く、まちなかだけでなく広域的に移動していることを確認できた。今後は官民連携での持続可能な事業計画を検討する。
- ・イベント時の周辺の駐車場利用状況について調査を行った。今後駅前の再整備により駅前の駐車場が縮小する。城跡も今後保存活用計画を策定するにあたり、史跡の範囲に駐車場を配置することは望ましくないと考えている。そのため代替駐車場を検討している。

■次年度に向けて

- ・今後は上記のような民間自主事業の新たな展開や公民連携事業に向けた動きに力を入れたいと考えている。

(増山氏)

■青井阿蘇神社周辺

- ・「青井阿蘇神社周辺のデザイン監修」：
 - ・蓮池北側：舗装は「乱尺張りの石畳」に改修する。
 - ・蓮池南側：歩道と車道の境界部に、段差を数センチにするセミフラット構造とする。昔の絵図を参考に、松や桜を植樹する。車道には石割り風の目地を入れ、歩道との景観の連続性や速度抑制の効果を持たせる。また、歩道にはキッチンカーを乗り入れできるようにし、「日常的な利活用」ができるエ

リアとして計画する。

- ・照明：足元を照らすスツール型照明や、手すり照明、春日灯籠などを組み合わせ、夜間の安全性と風格を両立させる。
- ・電線地中化：電信柱を神社の木の中に設置することで、参道に柱が出ないスッキリした景観を実現する。

■質疑応答

(岩下委員)

- ・夜はまちが暗い。
- ・ベンチ等が設置されていると思うが、汚れているときがあると思うので、ふけるものを近くに置いてほしい。
- ・中川原公園はあかりがあると、周辺の旅館から見て「あそこに行きたい」と思う人が多いと思うので良いだろう。
- ・お祭りの際にトイレが不足するため、洋式のトイレをつくってほしい。九日町の自分の土地がある。そこに公衆トイレを設置してほしい。

(泉 PM)

- ・今後の参考としたい。トイレについては、中川原公園に洋式のトレーラートイレを導入した。

(柴田委員)

- ・夜はまちが暗いというのは、いつから暗いという話なのか。水害等で街灯が減っているということなのか。

(竹地委員)

- ・街灯自体が減っているわけではない。ただ、建物が減っているため、建物からの漏れ光が少なくなっているのだと思う。

(中村委員)

- ・人吉駅周辺に更地があるのでその土地を市の駐車場にできないか検討いただきたい。

(星野氏)

- ・駐車場はまち全体としてどこに配置するのが良いか検討している。現在はエリア毎にデザイン監修を行っているが、今後はエリア同士をどのようにつなぐかどうか也非常に重要だと思っている。引き続き検討したい。

(真木委員)

- ・ハード整備については、今後も継続的に進めていただきたい。一方で公民連携事業について、鳥越委員からもあった通り、出生率が減少しており、これからの人口増も望めない中で、民間の投資を呼び込むことは難しいのではないかと。単発で企画をすることはできると思うが、今後継続的に民間の事業を行うにはハードルが高いと考えている。改めて事業としてどのように成り立たせることができるのかを考える必要がある。外からの投資を呼び込む工夫も並行して検討すべきかと思う。シェアサイクル×まちづくりや、球磨川下り×青井阿蘇神社周辺の空間再編などを、セットでパッケージ化して投資を促すという方法もあるかもしれない。

(井上委員)

- ・青井の空間整備には期待している。昔は青井阿蘇神社参拝から球磨川に進み、乗船して八代に下るというルートがあった。今後そのような風景が新たな形で実現するのか非常に興味を持っている。
- ・松を植えるという話があったが、江戸時代、松が焼けてホテルサン人吉付近まで火事になった時にその

責任問題で揉めたという背景がある。また、桜については、散った後の後始末を誰がするのか。近所の方たちで実施するのであればそのネットワーク形成も考える必要があると思う。

- ・今回の計画によって、昔の風景とは違う新しい風景ができていると思っている。その新たな取り組みを半分楽しみに、半分気にかけながら見ているところである。

(竹地委員)

- ・コンテナマルシェの跡地は今後どのように利用されるのか。

(井上次長)

- ・利活用の方法については未定である。現在は借地としてお借りしているが、改めてお貸しいただけるということであれば、今後の活用の方法についてデザイン会議にて検討したい。活用方法が決まればまた推進会議に諮りたいと考えている。

(松岡市長)

- ・上記に関して、承認ということで問題ないか。

(委員)

- ・承認

【その他】

(1) 来年度のスケジュールについて

【資料 11 来年度スケジュール案】

(溝口 PM)

- ・推進会議は年 3 回を想定、デザイン会議は月 1 回実施する。TF も並行して実施する。
- ・社会実験は一部を除いて、適宜継続的に実施する。
- ・中川原公園は上流側の護岸工事を実施する。
- ・公民連携事業についてサウンディングを行っていく。

以上